

プラスチックごみの発生を減らしましょう!

図1 日本全国の排出総量と大気及び水質中のダイオキシン類濃度の推移(環境省発表資料)

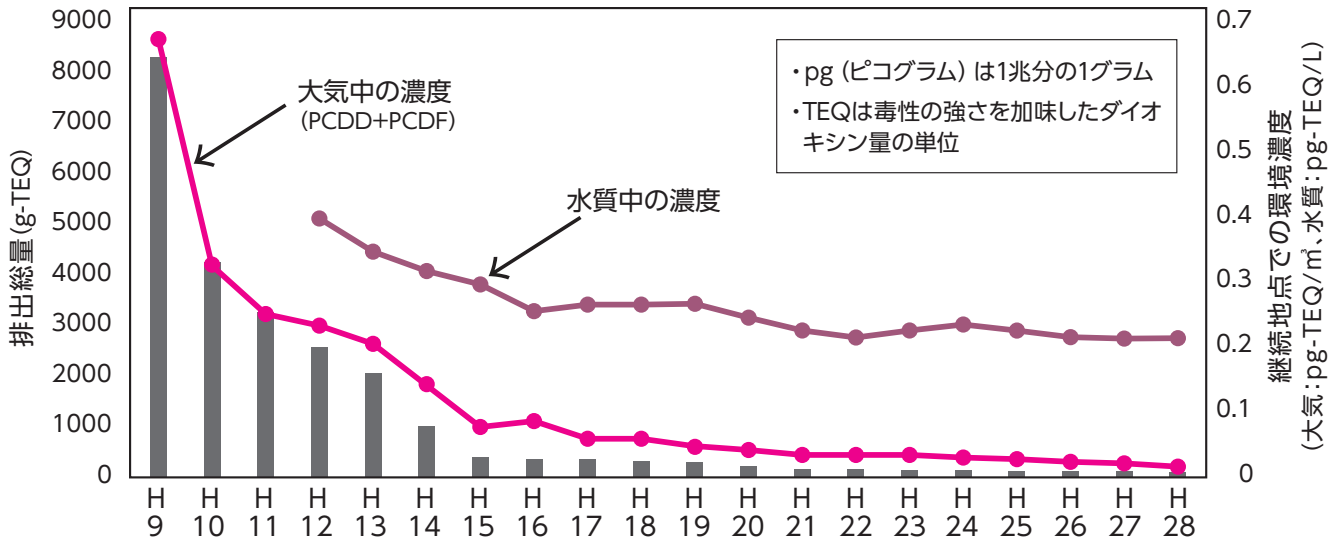
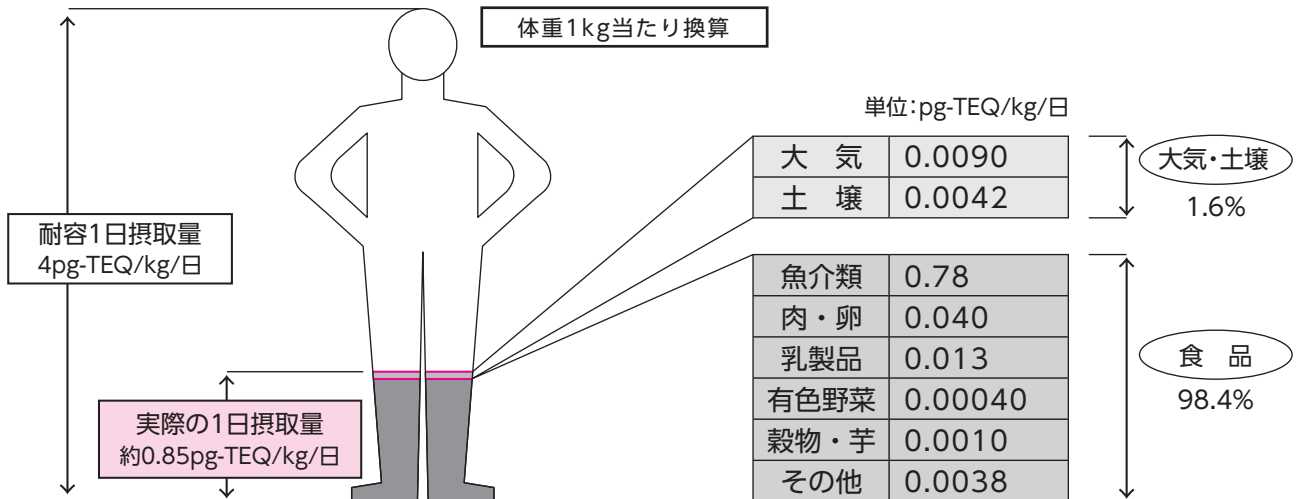


図2 日本人が1人1日に摂取するダイオキシン類の平均的な内訳【平成21年度】



資料: 2012環境省水・大気環境局総務課ダイオキシン対策室パンフレットより

プラスチックに関する話題

昨今、大手の飲食店などでプラスチック製ストローの使用を取りやめる、あるいは紙製ストローを使用し始めたというニュースが、新聞やテレビなどで報道されています。これは、適正に処理されず、不法に廃棄されたプラスチック類が海洋に流出し、ウミガメなどの生物や魚類が誤って体内に取り込んでいる事例が増えていることがきっかけとなっています。また、海を漂うプラスチック類が、紫外線や波の影響で細かく破砕され「マイクロプラスチック」となって漂流している量が増加し、海洋汚染の拡大や海洋生態系(クジラ、魚類、海鳥など)への悪影響が懸念されています。

高山市においては、資源ごみとして回収している「プラスチック製容器包装」や「ペットボトル」は再生利用などの資源として活用していますが、不燃ごみとして回収しているプラスチック類は、資源化できず埋立処分されています。埋立処分地は、多くを占める廃プラスチックや焼却灰の埋立により残余量がだんだん少なくなっています。

プラスチックは、軽くて持ち運びに便利であり、耐久性、耐水性に優れた安価であるなど長所もありますが、廃棄されたものが長年にわたり原形をとどめ自然に還ることがないという側面も持っています。

素材の特徴を活かして利用することは必要ですが、できるだけ使い捨てプラスチックの消費を控え、プラスチックごみの発生抑制にご協力いただくことが高山市の環境保全とまらず、地球全体の環境保全につながることを意識していただきたいと思います。

市民の皆さまにおかれましては、これからもごみの発生抑制、再利用の徹底、リサイクル品の活用推進などにより、市のごみ処理事業に一層のご理解とご協力を賜われますようお願い申し上げます。

